

「うた乃」春先に向けた管理について(1月28日現在) **New!**

農業研究所にて9月24日に定植した「うた乃」(9cmポット、二次育苗法)では第一次腋果房(2番)の収穫が1月下旬頃から始まり、第二次腋果房(3番)が肥大中、第三次腋果房(4番)が出蕾しています。

基本2芽管理とし、草勢が維持されている場合は、3番果房の着果数の目安は果房あたり4~5果実です。芽数(果房数)が増えている場合は適宜摘果数を調整してください。

1.5番果房が発生した株等で、連続的な出蕾により株疲れが見られる場合は株あたりの果数が増えすぎないように着果数を調整し、株疲れと味落ち防止を図ってください。

厳寒期は、草勢を保ち、連続出蕾を促すため、夜温を確保し、日中は「かおり野」より少し高めの27℃を目標に管理してください。また、灰色かび病が発生しやすい時期です。温度管理、換気対策は十分に行ってください。研究所の暖房設定温度は5℃ですが、早朝2時間(6~8時)は10℃にしています。また2月下旬には日長が長くなり新葉が伸びてきますので、急激な窒素吸収や株の過繁茂に注意が必要です。

【注意点】「うた乃」では3月~4月に3~4番果房の頂果に深い縦溝が入ったり割れたりする乱形果が発生することがあります。厳寒期の窒素過多とその後の急激な繁茂が影響している可能性がありますので、窒素過多になりすぎないように給液管理を行って下さい。



(発生事例：令和6年4月9日撮影)



株の様子



2番果房



連続出蕾している2芽株の様子

「うた乃」生育状況（農業研究所1月28日撮影）